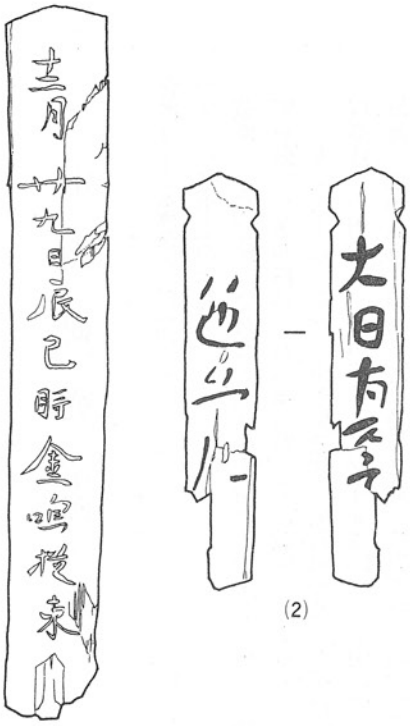
兵庫・前東代（まえひがししろ）遺跡

1 所在地　兵庫県姫路市御国野町深志野
2 調査期間　一九八三年（昭58）六月～九月
3 発掘機関　兵庫県教育委員会
4 調査担当者　西口和彦・水口富夫
5 遺跡の種類　旧河川跡
6 遺跡の年代　弥生時代、奈良時代～平安時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

前東代遺跡は、姫路市東部に位置し、西方約一kmに壇場山古墳や播磨国分寺が所在している。また、南に御着城があり、発掘調査の当初は、御着城の外濠検出を目指して開始した。兵庫県道路公社による播但連絡有料自動車道の建設が、御着城の外濠跡と想定される所に予定されたので、兵庫県教育委員会は遺跡の事前発掘調査を実施した。

（姫路）

現地は、北西から南東にかけ約二〇〇m間に、幅約一〇～一五mの凹地が続いていた。調査によって、この凹地は平安時代後期には埋没した旧河道と判明し、またこの河に合流する大溝も検出した。以下に報告する木簡は、この大溝が旧河道に流入する付近で出土したものである。木簡以外に、大溝や旧河道から出土した遺物には、弥生式土器・土師器・須恵器の土器類、大形蛤刃石斧、二又鋤や曲物容器・下駄等の木製品がある。さらに、底部外面に「十」の墨書のある須恵器杯が出土している。木簡以外では、頭部や両側部を削った人形が二点、用途不明木製品（檜扇カ）一点、(2)と同じ形態の木札が一点出土している。内容や形態からこれら木札は板塔婆および呪符の類と考える。


(1)　(2)

調査の結果、御着城の外濠は認められず、旧河道の検出のみに終った。また、住居跡等の生活跡も調査範囲内では検出されなかった。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「十二月廿九日辰巳時金□〔鳴カ〕従東　(416)×57×11　019

(2) ・「〈大日真□〔言カ〕　(116)×20×5　039

・「〈尺迦□□〔牟尼カ〕

(1)は、墨が流出し、文字が木面より浮きあがっている。裏面には墨書は認められない。

(2)は、赤外線テレビにより判明したものである。

(1)・(2)とも釈読にあたっては、奈良国立文化財研究所の鬼頭清明氏の御教示をいただいた。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『前東代遺跡』(一九八五年)

(西口和彦)

木簡研究 第四号

巻頭言——木簡保存法の思い出——　坪井清足

一九八一年出土の木簡

概要　平城宮跡　奈良女子大学構内遺跡　法隆寺　藤原宮跡　長岡京跡　三条西殿跡　鳥羽離宮跡　若江遺跡　佐堂遺跡　大坂城三の丸(大手口)遺跡　小曽根遺跡　尾張国府跡　下津城跡　坂尻遺跡　小川城跡　恒川遺跡　三ッ寺Ⅱ遺跡　下野国府跡　多賀城跡　郡山遺跡　胆沢城跡　道伝遺跡　笹原遺跡　明成寺遺跡　安田遺跡　大森鐘島遺跡　高堂遺跡　漆町遺跡(C地区)　南吉田葛山遺跡　百間川遺跡群(原尾島遺跡)　草戸千軒町遺跡　道照遺跡　長門国分寺跡　野田地区遺跡　湯川神社境内遺跡　大宰府跡(大楠地区)　九州大学(筑紫地区)構内遺跡　長野遺跡　辻田西遺跡

一九七七年以前出土の木簡(四)　和田　萃

平城宮跡(第二二次南・第二七次・第二八次・第二九次)　小谷博泰

呪符木簡の系譜　佐藤宗諄

木簡と上代文学——水産物付札をめぐって——

「漆紙文書」出土概要

彙報

頒価　三五〇〇円　〒四〇〇円